



「M&A 買収者の見解、経営者の異論」 | 編集部おすすめの1冊



数あるM&A専門書の中から、新刊を中心にM&A編集部がおすすめの1冊をピックアップ。選書の参考
にしてみても？

・ ・ ・ ・ ・

「M&A 買収者の見解、経営者の異論」 ケイト・ウェリング、マリオ・ガベリ 著 長岡半太郎、
藤原玄 訳（パンローリング刊）

本書の副題は「リスクアービトラージの実務と戦略と規律」。古くからの投資手法であり、またM&A
と投資を結ぶ新視点ともいえる「リスクアービトラージ」について、その実務的手法と利益を得るため
の戦略、さらにM&A業界とその実践家・プレーヤー、投資家が踏まえておくべき規律・ルールについ
て、世界の第一線の達人投資家たちへの取材でまとめた1冊。

著者は独立系金融誌「ウェリング・オン・ウォール・ストリート」を発行している著名な金融ジャーナ
リストで、バロンス紙編集長を務めていたこともあるケイト・ウェリング氏と、ガムコ・インベスター
ズの会長兼CEOで米国でもトップクラスの資金運用者・投資家のマリオ・ガベリ氏。

「リスクアービトラージ」とは、「古代より前に、一人の商人が、同じ商品が異なる（しばしば地理的
には離れた）市場で（たいていの場合）わずかながらも異なる価格で売られていることに気づき、一つ
の市場で安く買い、ほかの市場で高く売ること、その価格差を利用しようとしたことが始まり」とす
る。それが今日、「上場企業でM&Aが行われる際、成立することを見込んで、株式の値動きを利用し
てサヤを狙う投資行動」としても使われている。

本書はそうした手法の解説を超え、20人の取材対象者の人間的・行動的側面に深く切り込み、それぞ
れの投資家の投資・ビジネス経験がいかにリスク分析に役立ったか、経歴・経験から編み出された戦略の
価値などを余すところなく伝える。それは、まさにリスクアービトラージの内幕ということができ、大
きな成功を収めた投資家はアービトラージの魔術師といえるだろう。

M&Aにおけるリスクアービトラージ投資家は、長期的な一生涯を賭けた投資の成功を重視する。その
投資活動・洞察力から生み出され、編まれた教訓は、M&A投資家はもちろんM&Aの実践者・プレー
ーにも重要な視点を提供する。

なお、訳者は中堅運用会社に勤務する長岡半太郎氏と、独立系投資会社に勤務し投資など各分野の翻訳
を手掛ける藤原玄氏。（2020年1月発売）

文：M&A Online編集部